

急速に進む少子高齢化社会で 三世帯同居の復活を！

少子高齢化が急速に進んでいます。人口が増え、若者が多いという福岡市も10年後には高齢者のまちへと変貌します。東日本大震災を契機に、日本人は家族の絆や地域との関わりの大切さを再確認しました。単身世帯数の増加の中で、高齢者の孤立死などの社会的な課題に直面し、「家庭基盤の充実」を図る政策が求められています。

人口増とは言うものの 65才以上の人口が 増え続ける福岡市

わが国の都市人口が減少傾向の中、福岡市の人口は155万人を超え、政令指定都市(20市)で5番目となりました。福岡市内及び都市圏に大学や専門学校が多く、サービスの構成比が高いことから、若者の流入が続いており、今後18〜19年間は人口は増加し、160万人台前半まで伸び続けると推計されています。

人口の増加は都市の成長のバロメーターとも言われますが、少子高齢化の構造変化に見舞われ、すでに働き手年代の15才〜64才人口は頭打ちです。これからはこの生産年齢人口は減少傾向となり、65才以上の人口が増え続けることとなります。つまり、今後の福岡市の人口増は高

齢者の増加によるものに他なりません。とりわけ、後期高齢者(75歳以上)と単身世帯者が増加していきま。

私が注目するのは1つに、確かに福岡市は若者が多い都市であることは明るい材料ではありますが、2000年以降非正規雇用の増加が進んでいます。福岡市内でも格差(生活保護者の増加)が拡がっており、これは問題化すべきです。

2つ目は、高齢者(65才以上)が著しく増え続け、単身世帯の数が核家族の数を上回るといふ世帯構造の変化が起きている中で、高齢者の孤立死等の社会的課題に直面していると思うので

「家」は子どもの教育と 祖父母の世話などの福祉を 担う場所

このような状況を憂い、家庭重視の政策を行うよう政府に提言した人が、早稲田大学名誉教授で平和政策研究所代表理事の林正寿さんで、私・うちこしもその考え方に共感共鳴する一人です。

一般社団法人「実践倫理宏正会」の会報「倫風」5月号で、林さんが「個人」より「家庭」を大切にする社会へ」と題し、紹介されています。

「昔は家庭のことを『家』と呼びましたが、『家』は単に人が住むところではありません。皆で支え合いながら、子供を育て、老いた祖父母の世話をする、つまり教育と福祉を担う場所なのです。人は『家』で育ち、その『家』の文化や日本の伝統を継承して社会に出ます。やがて結婚し、育った『家』を継ぐ、または新しい『家』を構える。こうして私た

最近の人口推移

(2010年3月末〜2015年年初の日本人の数の変化、住民票ベース)

九州7県

総人口:2010年3月31日〜2015年1月1日

マイナス 14.7万人

人口は非常にゆっくりと減少中

15〜64歳は、あと80年でゼロ!になるペースで急速に減少中



福岡市

総人口:2010年3月31日〜2015年1月1日

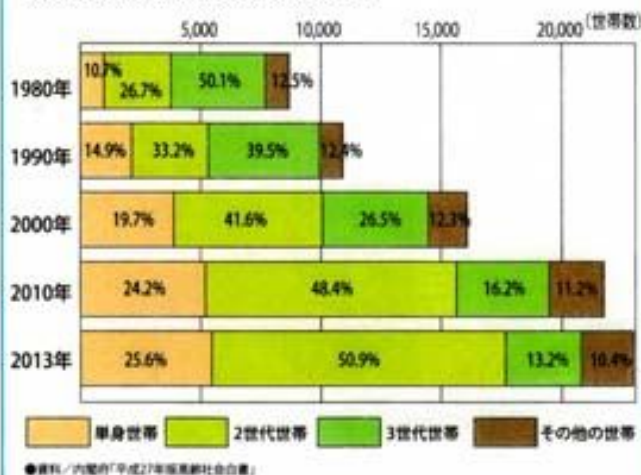
プラス 6.1万人

日本の大都市の中では、いま最も勢いよく人口が増えている!



3世代世帯の減少が止まらない

1980年では全世界の約半数が3世代世帯でしたが、2000年には26.5%になり、13年ではわずか13.2%になっています。この状況に危機感を持った政府は3世代世帯率を上げるため、昨年度、3世代住宅の建設や3世代住宅への改築に補助金を出す制度を創設しました。



ちの社会と文化は連続と続いてきたのです」

日本は戦後、核家族化が進み、家族の絆が弱くなりました。1990年前後までは比率において、単身世帯は横バイか減少傾向で、核家族世帯が増加していましたが、それ以降は単身世帯が漸増、核家族世帯は横バイとなりました。1990年を境に、晩婚化、未婚化に加え、高齢者の独り身世帯の増加といった社会構造上の変化が顕在化してきました。人々はなぜ「家」から離れてしまったのでしょうか。

林さんは「家」を存続させるためには、家業を継いだり、親とうまくやっていける結婚相手を選ぶなど、ある程度個人の自由を犠牲にせねばなりません。また、三世帯が一緒に住めば、世代間の対立や嫁姑の葛藤などの問題が生じることもありま

す。だから戦後、アメリカから個人主義が入ってくると、自由な生き方に魅力を感じた多くの若者は「家」を捨て、しがらみのない核家族を構えるようになったのです。そして、核家族で育てられた子供たちは、「家」の継承どころか、結婚にすらあまり

関心を持たなくなりました」と言います。

家族の絆を強化し、家庭の機能を維持する政策がない

かつては、三世帯家族を中心に家庭が、子供に基本的な生活習慣や礼儀、作法、そして善悪をはじめとし価値観などを伝える重要な機能を果たしてきました。しかし、社会の急速な変化すらも変えて、子供への価値観の伝達や社会性の育成にも支障をきたすようになっていきます。少年非行や犯罪を防止し、社会の安定のためには、家族尊重が不可欠であるとの認識は多くの人々が持たれているのではないのでしょうか。

確かに、世界の国々と比べれば、わが国はお互いが助け合が多い。しかし、同居していない祖父母は家族ではなく、ベッタの方が大事だとするような記述が教科書に登場し、家族を軽視する風潮があります。一緒に居ながら別々に食事をする個食や孤食も増え、家族がバラバラになっていきます。また、夫や妻、父や母という家庭での責任や役割を果たすことよりも、一人の男、一人の女としての権利を主

張する人が増えていきます。

家庭の理想形は三世帯同居

家庭にはいろいろな役割がありますが、林さんがとりわけ重要だと考えているのが「人づくり」です。

「教育の目的とは「人格の完成」です。今は勉強だけでなく、挨拶の仕方や食事のマナーなどのしつけまで学校に要求する親がいますが、とんでもないことです。どんなに優秀な教師でも四六時中生徒を指導することなどできません。人が生まれてから社会に出るまで最も長い時間を過ごすのは家庭なのだから、子供の教育に親が責任を持つのは当然です」と林さん。そして、家庭の理想は三世帯同居だと言います。それは祖父母との関わりが子供の成長に良い影響を及ぼすからです。

「愛着形成に一番大切なのは母親とのコミュニケーションです。しかし、今は生活のために保育園に子供を預けて働くお母さんが多く、子供と接する時間は少なくなっています。でも家に祖父母がいれば、子供は祖父母の愛情をたっぷり受けられますから、たとえ両親と過ごす時間が短くとも十分な愛着が形成されるでしょう。」

また子供は、祖父母との会話から多くのものを学びます。昔話や家の歴史、人としてあるべき姿など、お年寄りの語る内容は、人格形成に有用なだけでなく、社会に出てから役に立つものばかりです」

三世帯の結びつきを強化する支援策を検討

すでに、三世帯の結びつきを強化する支援策を実施している自治体もあります。主に住宅支援が中心ですが、千葉市の「三世帯同居等支援事業」では、「高齢者の孤立防止と家族の絆の再生を目的として」親と子と孫を基本とする三世帯が同居または1キロ以内の近隣に住居することなどを条件に、住居費などを助成しています。東京都品川区は、「親元近居支援事業(三世帯すまいるポイント)」として、親世帯と近居または同居するファミリー世帯に、転居費用の一部を支援しています。

他にも、家庭に関する施策を実施している都市があります。私・うちこしは、「健全な社会は健全な家族・家庭なくしては不可能」と思います。先進事例を参考にしながら、「家庭基盤の充実」を図る施策を検討していく考えです。

熊本城

熊本地震視察



城内は立入禁止のため
周囲を視察



城壁が崩れ神社を押し潰す



益城町



橋脚が崩れ通行止め



ガンバレ！
熊本・大分県
『揺れても倒れない
肥後もっこす』



私・うちこしは5月31日、福岡市議団有志5人で熊本地震被災地を視察しました。
4月14日(木)、16日(土)、熊本・大分を震源地とする大地震に見舞われ、いまだに余震が継続しており、想像を超える経験をすることになりました。トラウマに陥る不安な精神状況の下、一日も早い落ち着きを取り戻すには神頼み(自然災害の前には人間は無力であること)しかない無念さを感じております。また、熊本においても、惨状の中で秩序を守り、言われなくてもしっかりと社会秩序を守る道徳心、お互いを思いやる日本

精神を被災現場で感じました。被災地の一日も早い復興を願うばかりです。
視察は午前8時に福岡を出発、熊本城を皮切りに、県道28号線沿線の益城町の被災状況、益城町総合体育館(避難所)を視察、西原村方面に南下、グリーンロード(う回路)を経由して南阿蘇村、う回路経由で再度熊本市へ。わずか1日のみの視察でしたが、夜遅く福岡に戻ってきました。
臨時議会中の5月19日(木)日には、JR博多駅前と天神地区で、義援金の街頭募金活動を行いました。

益城町
施設



夜間は車で宿泊されている



ボランティア
の皆さん



仮設の拝殿



南阿蘇村

震災前の
阿蘇神社



災害時は被災者救援として
約1000名の宿泊が可能



護衛艦「いずも」を船上見学

私・うちこしは6月30日、福岡市議会防衛議員連盟の一員として、博多港に寄港していた護衛艦「いずも」を船上見学しました。

「いずも」は2015(平成27)年3月、全通甲板を有するヘリコプター搭載護衛艦として就役しています。艦の基準排水量は1万9500トン、全長248m、全幅38m、高さ49mです。優れた航空機運用能力とともに近代化された情報関連機器を搭載して、高い指揮統制能力を有するだけでなく、災害時における被災者救援として、約1000名の宿泊所としても利用できる設備を有するなどの特徴があります。



福岡市議団で5月19日臨時議会中に
義援金の街頭募金活動を博多駅前と
天神地区で行いました。



女子小学生からの寄付には感動しました

コラム

高齢者の 孤立死を考える

誰にも看取られない高齢者の孤立死が増えています。地方自治体は孤立死をいかに予防するかとともに、孤立死を早期に発見することが課題となつていっています。

孤立死と孤独死の 概念の相違

孤独死と孤立死という二つの概念は名称や定義が定まっていません。このため、混同されて用いられています。その結果、全国規模の孤立死の発生件数は明らかになっていないのです。「孤独死」という概念は生前に死者が孤独感を持っていたという主観的な要素が前提となっています。これに対し「孤立死」の概念は生前に孤立をしていたという客観的な状態を指しています。

孤立死の背景と要因

- ① 高齢化の急速な進展
全人口に占める高齢者の割合は4人に1人(2012年)から3人に1人(2035年)になると推計されています。
- ② 世帯構造等の変化
3世代世帯の減少は、子供

と親が同居しない状況の増加を示しています。高齢者の単独世帯(一人暮らし)と高齢者夫婦のみ世帯が著しく増加することは孤立死が増える割合が高まることを意味しています。

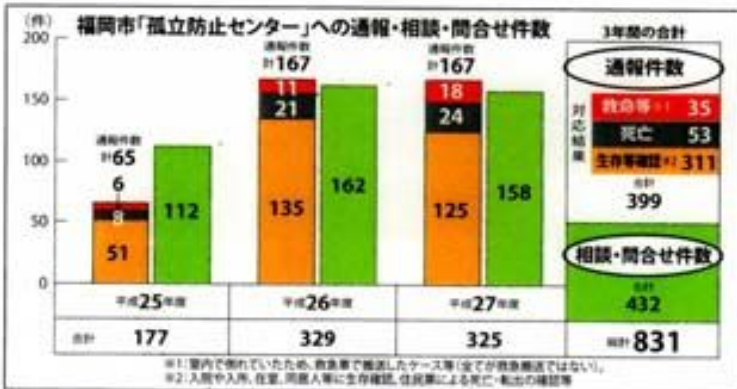
③ 世帯規模の縮小

孤立死は同居する家族がいれば発生しにくいものです。平均世帯人員が1980年に3.22人、1990年に2.99人、2000年に2.67人と減少が続いています。2020年に2.49人と見込まれています。

看取られない死が問題ではなく、看取られない死に至るプロセスが問題であると考えています。孤立死の対応策は難しく、有効な解決方法は手探りの状態にあると考えます。福岡市においても、高齢者が疾病にかかり介

護を要する状態になるなど、日常生活に支障が生じる状態が起ることを契機として危険性が高まると考えられます。これが表面化した時期には、近隣住民からの通報システムが有効です。

一人暮らしの高齢者に聞かして「新聞がたまっている」「自宅から異臭がする」「最近見かけない」などお気づきになった場合は福岡市が設置した見守りダイヤル 電話 080-9100-0883 (N



PO法人「孤立防止センター」に委託)にご連絡下さい。

見守りダイヤルは2013(平成25)年8月、事業開始。「福岡見守るっ隊」(注)や地域で見守り活動を行う方々などの通報に対し、ワンストップで24時間電話対応、8時から20時まで安否確認を行っています。警察や消防対応事例は除きます。

(注)「福岡見守るっ隊」九州電力、西部ガス、西日本新聞など新聞各社、水道局、生協など高齢者の自宅に定期的に訪問している業者などを中心に参加していただき、孤立死が疑われるなどの住民の異変に気付いた場合、見守りダイヤルに通報してもらおうと協定を結んでいる。

地域の住み心地をよくするために

一方で、一番の問題は、福岡市内においても地域のコミュニティが希薄になってきているということ。何と、いっても、自分達の地域の住み心地を良くしようとするのが大事です。

東京のように一人ひとりが孤立して行き、自分さえ良ければいいという発想に陥ると、介護施設はただの迷惑施設になってしまう。まずはその発想を変えなければなりません。

また、最近、空き家の増加が問題になっています。そこで空き家をグループホームなど施設

に転用できないかと考えるのですが、これが難しい。高齢者が入ることを嫌がったり、火事になる危険があるとの理由で周辺の住民が反対するケースもあります。消防法も厳しくて、スプリンクラーなどを設置しなければならず、そこまでやるならむしろ新しいものをつくってしまつた方がいいということになって結果的に何も進まない。

安倍首相は、アベノミクス第2ステージとして、「一億総活躍社会」を掲げ、新たな「三本の矢」を打ち出しました。すなわち、「GDP六〇〇兆円」「希望出生率一・八」「介護離職ゼロ」を指すことです。その第一弾として緊急対策が発表され、「2020年代初頭までに約50万人分の介護サービスの整備」、「都市部における国有地の賃料を減額し、介護施設の促進」、「介護ロボットの活用促進による介護人材の負担軽減」などが打ち出されました。

家族の介護のために離職せざるをえない人は年間10万人いるといわれています。これから後期高齢者が激増する福岡市においても、これからの超高齢化社会への取り組みが着実に進められていく必要を強く感じております。

うちこし会 新春の集い

うちこし会新春の集いが平成28年2月21日(日)11時から、井尻会館において開催されました。朝方は冷え込みましたが、すばらしい晴天に恵まれ地域の皆様方に75名ご参加いただき、盛会に催すことができました。

まず初めにうちこし会を代表して会長の徳永栄治様、次に衆議院議員鬼木誠様よりご挨拶をいただきました。

今年の干支は60年振りにやってきました丙(ひのえ)申(さ

る)になります。これまでの頑張りや形になっていく年で、来年に向けて成果を挙げたい。お陰様でうちこしも四期目の2年目を迎え、福岡市のさらなる発展と市民の暮らしを守る政策を進めてまいります。

うちこし会をご支援下さる皆様から校区より足を運んで頂きましたこと、誠に感謝申し上げます。

平成28年 八天会新年会

「八天会(企業後援会)」の新年会が平成28年2月1日(月)18時から、セントラルホテルフクオカに於いて開催され、お陰様で57社、70名のご出席をいただきました。

まずは代表世話人 吉次正利様よりご挨拶を賜り、うちこし基安より新年を寿ぎ今年の抱負を述べさせていただきました。

今年は7月に参議院選挙がありました。大家さんと

議院議員にもご挨拶を頂戴致しました。

ご出席の皆様より、うちこし並びに大家参議院議員に暖かいお言葉をかけていただきました。和やかなうちに会食は続き、世話人の森永幸次郎様から万歳三唱のご発声を元気に爽やかにとり行っていました。ご多忙の中ご出席いただきました皆さま、本当に有り難うございました。



今年は井尻公園で、うちこし会お花見



今年もうちこし会のお花見を3月31日(木)12時から、井尻公園にて催しました。昨年までのほたる公園から場所を移し、事務所から徒歩3分の所に位置する公園です。

当日は朝から空模様が怪しく、雨がいつ降り出すかと冷や冷やしながらのお花見でした。しかし、花は満開で、花衣(はなごも)を装った方のご参加もあり、

春爛漫の宴となりました。花見弁当を聞き、つわぶき会の皆さんの手作りの豚汁とぜんざいをお腹一杯召し上がっておられました。くじ引き大会が終わる頃にはポツポツと雨が落ち始め、丁度よい宴閉幕の合図となりました。

120名の参加がありましたお花見会、来年も桜の下でお会いしましょう。

恒例の博多どんたくに、うちこしも参加！



小学生たちが沖縄の歌「花」を、鮮やかに演じてくれました。

恒例の「市民の祭り博多どんたく 港まつり」が今年も5月3日4日、熊本・大分の復興に向けてのメッセージを掲げ、盛大に開催されました。

初日の3日は朝から大雨が降る中でも、大橋舞台は賑やかに始まり、華やかな民舞の踊り、南区消防団の勇壮なまじり、薩笛、リズムカルなキッズダンス等が披露され会場を沸かせていました。

この日は残念ながらパレードは中止となりましたが、4日は素晴らしい晴天に恵まれ博多の町はどんたく一色となりました。



お二人は、私・うちこしと同じ吾妻流の兄弟子です。

暑中お見舞い申し上げます！

議会運営委員会の委員長に

再任されました



私・うちこしは昨春行われました福岡市議会議員選挙で4期目の当選を果たさせていただきました。それから早いもので2年目に入りました。これもひとえに皆様からのご支援の賜物と御礼申し上げます。

市議会での役職は、昨年引き続き、議会の要となる議会運営委員会の委員長に再任さ

れました。同委員会は、定例議会の開催日程の調整や本会議の進行の確認などを行うものですが、議長をサポートし、各会派の調整が重要な仕事です。

参院選もお世話になりました

また、7月10日投票開票の参議院選挙におきましては、わが自由民主党および福岡選挙区で大家さとしの再選に、お力添えを頂きました。お陰さまで参議院も自民党単独で過半数を占め、大家もトップ当選はなりませんでしたが、上位の得票で無事当選することができました。これもまた、皆様方のご支援がなくては果たせなかったことで、重ねて御礼申し上げます。



第32回日本舞踊民謡愛好会（通称・つかさ会）春の踊りが4月3日、南市民センター大ホールで開かれ、私・うちこしも出演しました。うちこしは吾妻流瑠璃師匠の門下で、足かけ8年、稽古を続けております。（演目は「日本の男」）



第32回日本舞踊民謡愛好会
春の踊りに出演

ご意見およびご要望をお寄せください！

- ご連絡先
- 福岡市議会自由民主党控室
TEL092-711-4722 FAX092-741-4874
- うちこし基安 事務所
福岡市南区井尻 4-3-49（西鉄井尻駅交番前）
TEL092-589-3600 FAX092-589-3636
サイト <http://www.uchikoshi.info/>
Eメール m@uchikoshi.info
どうぞ、お気軽にお立ち寄りください！

